

関西健康科学専門学校

2024 年度 自己評価報告

2025 年 5 月 23 日

学校法人神戸創志学園



関西健康科学専門学校

目 次

1. 学校教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) 教育理念・目標
 - (2) 学校運営
 - (3) 教育活動
 - (4) 学修成果
 - (5) 学生支援
 - (6) 教育環境
 - (7) 学生の受け入れ募集
 - (8) 財務
 - (9) 法令等の遵守

1. 学校教育目標

本校は、柔道整復師として高度な専門性と実践力を備えた人材の育成を使命とし、医療分野において社会貢献できる有為な人材の輩出を目指している。そのために、現場経験豊富な教員を配置し、教育環境や設備の整備・更新を通じて、より実践的かつ効果的な職業教育の実現に努めている。

2. 本年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度は、臨床現場で即戦力として活躍できる人材の育成をより一層推進することを中心課題としている。

新たに導入されたカリキュラムにより、臨床実習の時間数が大幅に増加し、より実践的な教育環境が整備された。

この機会を活かし、実務に直結する教育内容の充実を図り、実社会で通用するスキルと知識を備えた専門職の育成に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているのか)	④	3	2	1
②学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
⑤教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

a. 課題

創創立以来、一貫して職業人の育成を教育の根幹に据え、実践的な指導を積み重ねてきた。

柔道整復師としての職業観や本校ならではの教育の特色については、保護者、接骨院の院長、さらには高等学校関係者へも積極的に発信していく必要がある。

そのためには、学校の教育内容や成果を具体的に示し、外部との信頼関係をより強固なものにしていくことが重要である。

b. 今後の改善方策

ガイダンスや出張講習会等様々なチャンネルを使い改善を行っていく。

さらに高等学校との連携授業や、部活動へのトレーナー派遣などより活動の場を広げていく。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1
④人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	③	2	1
⑤教務・財務等の組織整備等、意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されている か	④	3	2	1
⑦教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	④	3	2	1
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

a. 課題

組織体制および命令系統は明確に整備されており、業務連絡には Slack 等の情報共有ツールを活用し、全体への周知が図られている。

一方で、非常勤教員との意思疎通に課題が見られるため、今後は個別対応を丁寧に行い、連絡体制の強化を進めていく方針である。また、人事や給与に関する規定については、より一層の明文化を進め、教職員全体への理解と透明性の向上を目指す必要がある。全体として、組織内の情報伝達と理解促進に向けた継続的な工夫が求められる。

b. 今後の改善方策

毎日の昼礼、週に一度の全体会議、月に一度の教員研修などを通じて、コンプライアンスの遵守を徹底してまいります。

特に教員研修では、法令遵守や倫理意識に関する内容を盛り込み、教職員一人ひとりがコンプライアンスに対する理解をより深める機会として継続的に実施していきます。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修学年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されている	4	③	2	1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥関連分野における実践的職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る用件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等のマネジメントが行われているか	④	3	2	1
⑬関連分野の先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか	④	3	2	1
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

a. 課題

外部関係者からの意見・評価は、Zoom 等のオンライン手段を活用して定期的実施している。

また、教育の質を高めるために、教職員を対象とした年 1 回の研修制度を設けているが、若手教員の増加に伴い、日常的な指導体制の強化が求められている。

そのため、月に1回の教員会議を基盤としながら、OJTをより計画的かつ実践的に行い、教員全体のスキル向上を図る必要がある。

b. 今後の改善方策

業務分担を明確にし、偏りのない業務体制を構築することで、より円滑な授業運営を常に追求する。
また、学校関係者評価については、文部科学省のガイドラインに沿って適切に実施していく。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエデュケーションの改善に活用をされているか	④	3	2	1

a. 課題

就職率や資格取得率については、現時点で一定の水準を維持しており、概ね良好な結果が得られてる一方で、退学率に関しては引き続き「ゼロ」を目標に掲げ、継続的な対策と改善が求められる状況である。また、卒業生の社会における活躍状況や評価についての把握体制は、今後の重要な検討課題であり、組織的な情報収集の仕組み構築が期待される。

b. 今後の改善方策

退学理由の一つとして、進路変更によるケースが見受けられる。

今後も、各学年の担任が学生一人ひとりの状況に寄り添い、丁寧な対応を行うとともに、専門カウンセラーとの連携を強化することで、退学率のさらなる低減を図っていく。

また、就職支援としては「キャリアマップ」等のシステムを活用し、在校生のみならず卒業生に対しても、就職・転職を含めた継続的なサポートを実施していく。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

a. 課題

学生相談については、クラス担任が中心となって対応しており、生活面や経済的な問題を含めた包括的な支援ができるよう、専門知識を有する相談員を配置している。

一方で、課外活動に関しては、活動拠点の確保が難しく、活動日数が限られている状況にある。

b. 今後の改善方策

学生のメンタルヘルスへの対応として、相談室を週1回（金曜日）に開設しており、開設日や時間帯を学生に周知することで、精神的負担による休退学の抑制を目指す。

また、柔道部・野球部・サッカー部・バレーボール部・バスケットボール部・陸上部などの課外活動については、安定して活動できる場の確保に向けて、引き続き環境整備に努めていく。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3	2	1
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

a. 課題

学内外の実習施設については一定の整備がなされているものの、コロナ禍の影響により、学外実習が一部制限されるケースがあった。

今後は、学外実習の実施体制をさらに強化するとともに、学内での実習においても、より実効性の高い内容・方法で展開していく必要がある。

b. 今後の改善方策

すでに複数の学外実習施設の確保は進んでいるが、各施設との連携をより密にし、本校の教育理念や指導方針を丁寧に伝えていくことが重要である。

そのためには、各教員が積極的に関係機関と連携を図り、教育内容と実習環境のさらなる充実を目指す。

c. 特記事項

南海トラフ地震を想定した防災訓練を、芦屋市の防災情報マップを活用して実施している。

あわせて、防犯対策として不審者の侵入を想定した対応訓練や指導も行っており、学生の安全確保に向けた体制整備を進めている。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝わっているか	④	3	2	1
③学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

a. 課題

兵庫県内で唯一の柔道整復師養成専門学校として、柔道整復師の社会的意義や職務内容について、県内の高等学校への理解促進が求められている。

また、地域の接骨院に対しても、本校の教育実績や特色をより効果的に発信する必要がある。

b. 今後の改善方策

情報発信においては、量と質の両面に課題があると考えられ、まずは内容の質的向上に重点を置く。

その一環として、教職員のプレゼンテーション能力の強化を図るとともに、SNSをはじめとした多様な広報ツールの活用が不可欠である。

学校案内パンフレットは毎年見直し・刷新を行い、SNSによる情報発信と併せて広報活動の充実を図っていく。

さらに、高等学校との連携強化として、早期からのガイダンスや出張授業、部活動へのトレーナー派遣などを通じ、柔道整復師という職業の認知向上と進路選択の支援に努めていく。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③財務について適正に行われているか	④	3	2	1
④財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

a. 課題

当校を設置する学校法人神戸創志学園において財務基盤は安定しており、問題は無い。財務情報公開についても体制は整備されており、透明性は確保されている。

b. 今後の改善方策

今後もこれまで通りの財務情報の公開を継続していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
④自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

a. 課題

自己評価の結果をホームページなどを通じて広く一般に公開することで、本校の現状や取り組みを社会に対して透明性高く示すことができる。

これにより、教育体制の信頼性向上と一層の充実を図っていく必要がある。

b. 今後の改善方策

本年度の自己評価結果を踏まえ、学校関係者評価委員会による第三者的視点からの評価も実施し、その結果についても引き続き外部に公表していく。

継続的な情報公開を通じて、教育の質向上と社会からの信頼確保に努めていく所存である。